

「平成30年度に実施した仕事」の振り返りシート

記入日 平成 31 年 4 月 9 日

先天性風しん症候群対策事業						
担当部署・課長名	健康	課	予防	係	課長名	志村 明子

この仕事は、どの【施策】の課題を解決するための手段ですか。			施策番号	2 - 1	-
【施策名】 保健・医療の充実			総合計画書 (ページ)	47	

予算名	款 4 衛生費	項 1 保健衛生費	目 2 予防費	事業 1 予防事業費
-----	---------	-----------	---------	------------

1 この仕事の目的	① 誰(何)を対象にしていますか。 19歳以上の市民で、 ・妊娠を希望している女性…① ・妊婦と同居する人 ・①と同居する人 → H30.11～対象拡大	① ①の対象数や量を、あらわすもの(対象指標) ① 新規抗体検査申請者数 ② MR予防接種申請者(自己抗体検査者)数
	② ①をどのような状態にしたいのですか。[簡潔に] 妊娠中の風しんの感染を防止するため、妊娠前に風しん抗体を保有する。	② ②の状態になった数・量をあらわすもの(成果指標) ① (抗体保有者+低抗体価による予防接種者)/抗体検査申込み者 ② MR予防接種実施者数/予防接種申請者(自己抗体検査者)数
	③ そのために何をしましたか。 ① 抗体検査申請者への抗体検査(委託) ② ①で低抗体価だった方へのMR予防接種(委託) ③ 自分で受けた抗体検査で低抗体価だった方へのMR予防接種(委託)	③ ③をどのくらい行いましたか(活動指標) ① 抗体検査 受検者数 ② ①の内、MRワクチン接種者数 ③ 自身で受けた抗体検査で低抗体価だった方のMRワクチン接種者数

		単位	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	平成31年度目標	平成32年度目標
2 指標の推移	対象指標	①の数値	件	① 104 ② 91	① 60 ② 74	① 340 ② 89	
	成果指標	②の数値	%	① 100.0 ② 90.1	① 100.0 ② 79.7	① 100.0 ② 91.0	
	目 標	②の目標値	%		100	100	100
	目標設定の考え方		抗体が低く、予防接種が必要な方すべてが接種することにより十分な抗体をつける。				
活動指標	③の数値	件	① 104 ② 39 ③ 82	① 60 ② 32 ③ 59	① 340 ② 115 ③ 81		

3 経費	事業費(実績)		円	1,810,380	1,338,312	4,072,697	※人件費の所要人数は、基本的には「人」で表わしますが、一時的な仕事については時間数での表示も可とします。その場合単位を「時間」に変更してください。 人件費(再任用職員以外) 年間単価は、8,244,000円 時間単価は、4,200円 で計算してください。 【算出根拠】平成29年度決算数値。(退職手当組合負担金、共済費も含む。)
	財源	一般財源	円	649,406	546,200	373,327	
		特定財源	円	1,160,974	792,112	3,699,370	
	(うち受益者負担)		円	0	0	0	
	人件費(目安)	所要人数(再任用以外)	人	0.0	0.0	0.0	
		所要人数(再任用)	人	0.0	0.0	0.0	
職員人件費(再任用以外)		円	165,340	165,060	403,200		
職員人件費(再任用)		円	0	0	0		
事業費+人件費		円	1,975,720	1,503,372	4,475,897		

この仕事における市の裁量 市の裁量は小さい

4 環境変化	この仕事の開始時期(開始年度)、何を目的に開始していますか。 平成24年度からの風しん流行、先天性風しん症候群の発生増加を背景に、妊婦への感染・先天性風しん症候群の発生を防止するために、緊急事業として実施した。
	開始当初と比較し、状況の変化はありますか。 平成25年夏以降、風しんの流行は減少し、沈静化していたが、平成30年7月以降、風しんの患者数の増加及び流行が見られたことにより、本事業の対象者を拡大した。また、国においても、抗体保有率の低い年齢層の男性を対象に抗体検査と定期予防接種を開始する方針が決定された。

仕 事 の 内 容	先天性風しん症候群対策事業			
担当部署・課長名	健康	課	予防	係 課長名 志村 明子

5 市民等の意見	この仕事に関して、平成30年度中に寄せられた市民・議会等の意見、また、市民・サービス利用者等の実態やその意識について			
	本事業は、19歳以上の女性を対象としていたことで、妊婦の夫に対する助成が無いのは不公平だとの意見があった。その後、風しんの流行に対する対策として、都が対象を拡大したことにより、妊婦と同居する男性等も対象となった。			
6 市民協働	(1)市民協働の取組を行いましたか。ある場合は、取組手法の種類から番号を選択。（複数回答可）			
	取り組みは無い	取組手法	【取組手法の種類】 ①共催 ②実行委員会・協議会 ③事業協力 ④事業委託 ⑤補助・助成 ⑥情報提供・情報交換（広報媒体： ）⑦後援・場の提供 ⑧その他（ ）	
	(2)平成31年度に向け、さらに適した協働の形態とするための「考え」又は「気付いた」点 なし			
7 課題	(1)「平成29年度に実施した仕事」の振り返りシート 「7 課題(2)」の内容			
	<ul style="list-style-type: none"> 先天性風しん症候群に対する理解が不足している。 予防接種申請後の未接種者がいる。 			
	(2)(1)の課題解決に向けた取組や、事務改善など、平成30年度に実施したこと。 <ul style="list-style-type: none"> 婚姻届を提出された方に対し「先天性風しん症候群」について、周知を図るとともに当該事業についてPRのチラシを配布した。 予防接種申請後の未接種者及び、過去3年の抗体検査の結果、要接種で未接種者に対し、接種勧奨を行った。 風しん患者数が増加したことにより、先天性風しん症候群に対する関心が高まり、市民の理解がある程度進んだ。 国が、平成31年2月1日に成人男性を風しんの定期予防接種の対象にしたことから、本事業との整理が必要となる。 			
8 今後の方向性	(3)(2)を踏まえた今後の課題			
	<ul style="list-style-type: none"> 国制度と本制度とで、対象者の重複があることから、国や都の通知に留意し、内容を整理、委託先となる東大和医師会と円滑な実施に向けて調整等を図る。 			
	(1)仕事の方向性（「7 課題(3)」の課題解決に向けた具体的な改革・改善案など）			
8 今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 平成31年度に国制度と本制度との内容を整理し、資料等を医師会（協力医療機関）に配布する。 平成31年度に医師会（協力医療機関）に対し説明会を実施し情報共有を図る。 			
	(2)上記(1)の改革・改善案を実現するために、克服すべき問題点、必要な調整・準備等			
	<ul style="list-style-type: none"> 医師会（理事）と調整し、医師会所属の協力医療機関が重複対象者の扱いなど本制度と国制度をそれぞれの円滑な実施が図られるようにする。 			
成果	(3)改革・改善案による期待成果			
	上記(1)の改革・改善案を実施することで、成果面と経費面で現状からどのように変わりますか。			
成果	成果を維持する。		経費	仕事の経費は維持する。